

「こどもの国」(神奈川県)
東京都心からのアクセス抜群。整備状況もよい。オリエンテーリングの最初のステップとして最高のコースがここにある。

「こどもの国」コース
神奈川県 No.19 JOA 公認 No.19
6km 10ポスト

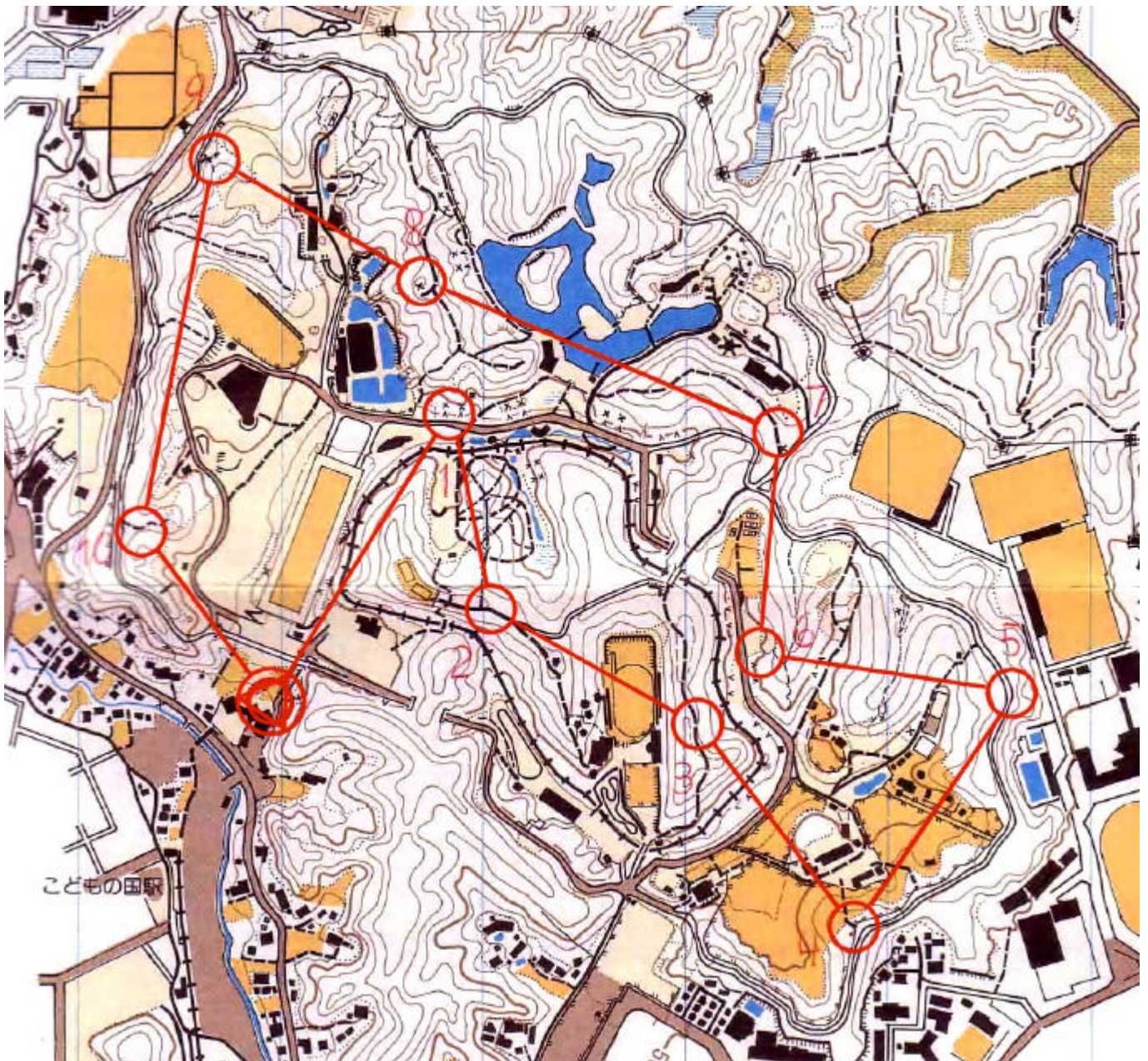
都心からアクセス抜群

東京都町田市と神奈川県横浜市にまたがる丘陵地帯。そこに約 100 ヘクタールもの土地を拓いて整備されたのが「こどもの国」です。開園は昭和 40 年 5 月 5 日のこどもの日。すでに 40 年以上もの歴史を持ち、地元の方々にとっては手軽な行楽地として欠かせない存在になっています。パーマネントコースの開設は、開園から 7 年経過した昭和 47 年 3 月 8 日のこと。公認ナンバーからもお分かりのように、パーマネントコースが国内に産声を上げて間もな

い頃です。

都心からのアクセスはとても便利。渋谷から東急田園都市線長津田駅で下車。ここで横浜高速鉄道のこどもの国線に乗り換えて 2 駅、終点の「こどもの国」駅に到着します。私の自宅の中央林間からだと、長津田まで急行で 1 駅、こどもの国までは計 3 駅という近さ。所要時間はわずか 20 分足らずです。

駅からは陸橋を渡り、正面入口までは歩いて数分。入場料は高校生以上が



600 円、小中学生 200 円、幼児は 100 円。入口すぐの右手に案内所があり、マップは 1 部 50 円で入手できます。平成 8 年調査の O - M A P は、10 年近く経過しているものの、現地との差異はまったく気になりません。

私にとって今回は 2 度目の挑戦。今回は 23 年前の昭和 58 年 1 月のことで、まだ中学生でした。この時の地図は、同じ 1:10,000 ながら、水色の枠の中に地図が印刷されている古典タイプ。園内こそ大きな変化はありませんが、周囲の山々には多くの新しい建物がその後に来上がったことを物語っています。

案内所前に立派な案内板が設置されています。マスターマップの管理は良好。新旧のコースを比較すると、第 7 ポストが大幅に変更になり、第 5、6 ポストも若干移動しています。それ以外は以前のまま。23 年前の写真も持参し、どれだけ変わったかも確認しながら歩くこととしました。

整備状況も抜群

10 時 51 分にスタートしてまず気づくのが、正面の陸橋の色。以前は赤だったのが、淡い緑色に塗り替えられています。その下をくぐり、蚤の市開催中の中央広場を通り過ぎると、内周道路に到達します。そこから目と鼻の先には何に使うのか横穴が 2 つあり、手前の横穴の脇に第 1 ポストが設置されています。マスターマップ同様管理良好で、新設コースと何の遜色もないポストです。

このあたりで神奈川県横浜市青葉区から東京都町田市のエリアに入ります。サイクリングコースの下を過ぎるとディスクゴルフ場に差し掛かります。オリエンテーリング同様、日本ディスクゴルフ協会(JPDGA)という組織があり、こどもの国のこのコースも、協会公認だそうです。9 ホールのみですが、時間のあるときはチャレンジしてはいかがでしょうか。吊り橋からの道と合流し、南の突き当りを左折するとすぐに第 2 ポストが目飛び込んできます。前回の写真を見ると周囲は藪に包まれています。いまは何の遮蔽物もなく、ちょっと拍子抜け。

このあたりは園内にもかかわらず、森の中を歩いている気分を満喫できます。オリエンテーリングムードも一気に盛り上がることでしょう。サイクリングコースを渡る橋の袂で右折すると再び神奈川県へ。尾根道を進むと道端で第 3 ポストを発見。これまでのポストと違って、全体的に錆が目立ちます。

そのまま南へ下ると外周道路と内周道路の分岐点に到達します。ミルクプラントを横目に見ながら内周道路を歩き、こども達に解放された牧場、「こども遊牧場」の牧欄に沿って上り坂に向かいます。途中、雪印こどもの国牧場が運営する緬羊舎では白い顔をしたニュージーランド産のコリデールと、黒い顔をしたイギリス産のサフォークが仲良く佇んでいました。勾配を上り詰めると、藪の中に目にも鮮やかな第 4 ポストが顔を覗かせます。

第 5 ポストへは外周道路をただただ歩くだけ。途中、右手東側には日体大健志台キャンパスが広がっています。昭和 58 年当時は総合グラウンドしか存在しなかったこの地に、平成 3 ~ 4 年にかけて体育館や創立 100 周年を記念した「百年記念館」などが整備され、学生を迎えるようになりました。現在では 2,600 名もの生徒がここでキャンパス・ライフを送っているそうです。園内はサンクチュアリのように自然が保たれている一方、一歩外へ踏み出すと、こうした開発が徐々に進んでいることを肌で感じられる区間です。その先、やや手前に移設された第 5 ポストは道の脇にあって難なく到達。かつてのポスト位置である、分岐からやや下った地点にはコンクリート土台の破片がわずかに残っています。

緩やかな下り坂を降りると、一転賑やかに。左手にある「こどもどうぶつえん」はウサギやモルモットと直接触れ合えたり、鳥が放し飼いにされていたりと、こども達の学習には好適な施設です。さらに、隣接する「ポニー牧場」では小さなこどもでも乗馬が楽しめます。歩を進めると、第 1 ポスト同様横穴の脇で第 6 ポストを発見。地図に掲載されている写真は以前の第 6 ポストですが、手前に移設されたこともあり、風景は一変しています。

第 7 ポストは幾通りかのルートが選択できますが、これまでがあまりに易しいルートだったので、ここは一番ハードと思われる尾根筋の小径を選択します。斜面を登り、このルートの入口にたどりつくと、その先は濃い笹藪。小径であることは辛うじて判別できるものの、それを覆い隠すような笹藪を漕ぎながらガサガサと進んでいきます。このくらいの刺激があったほうが、パーマnentコースの面白味も増すのですが、これは経験者だけの楽しみ方。初めての挑戦者を率いている場合はここを避け、広い道を選びましょう。非公認の中級コースのミニポストが現れると、その先は歩きやすいルートに変わります。この脱出感がまさに醍醐味。

外周道路を西に向かい、三叉路を右に入るとまたすぐに分岐があり、未舗装ルートに入ると大幅に移動した第 7 ポストに到達します。このあたりからは再び東京都。足元に植樹されている「丸葉満作」は 3 月にはいと黄色い花を咲かせます。本来は北海道から日本海側の多雪地帯に分布しているものですので、こうして関東地区で見られるのは貴重です。

第 8 ポストへ向かう最初の尾根道は、朽木が敷き詰められていて、ふわふわとした感触が心地よい、足に優しいルートになっています。丘を下るとそこは 2 月末に完成予定の「おとぎの広場」の工事中。真っ赤な滑り台がこども達を心待ちにしています。白鳥湖畔はそのまま進まず、ピジターセンターの横から斜面をよじ登り、尾根道へ短絡。ほどなく「共有山林開墾記念碑」の横に立つポストに到達します。眼下には、以前はなかったアイススケートのリンクがあり、イベントでも開催されているのか、多くのこどもで賑わっていました。

北に進むと、お馴染みの外周道路に突き当たり、西へと向かいます。道の南側には「椿の森」と名づけられた一画があり、5,000 本もの椿が植えられています。やや気の早い何本かは春を待ち切れず、花を咲かせていました。この先で東京都とはお別れです。三度横浜市青葉区に入り、南へ向かうと道路からやや入った林の中に第 9 ポストは置かれています。

最後も外周道路をたどります。頭の丸い消火栓格納庫を見たり、園外の墓地を眺めたりしながら進み、小径を下ると第 10 ポストに到達。前回の写真を見ると、かなり広い空間があるのですが、現在は笹藪に覆われて、とても同じ場所だとは思えないほどに変容しています。ポストは以前と同じもので、赤錆が目立っています。

小径をくだり、陸橋をくぐると間もなくゴールです。12 時半を少し回った頃でしたが、来場者は跡を絶たないよう、入口付近はまだまだ賑わっていました。

午後 1 時過ぎには自宅に戻り、このレポートに取り掛かった次第です。

園内ながら野趣溢れ、入門コースとしては最高の環境が整っています。みんなでお弁当を持って出かけましょう！

(2006 年 2 月 12 日 踏破)

(大高竜亮)